

現広島FMP開発事業用地の新たな利活用に係る有識者検討会（第2回）

議事録（議事要旨）

項目	内容
1 日 時	①令和6年1月29日（月）13時～15時 ②令和6年1月30日（火）10時～12時
2 場 所	①オンライン（Zoom） ②商工会議所8階 観光課 会議室
3 出 席 者	<p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現広島FMP開発事業用地の利活用に係る事業提案募集（公募）における審査部会委員（3名） ・マーケティング、ファイナンス、観光分野等の専門家（4名） <p>【事業予定者】</p> <p>株式会社トムス（3名）</p>
4 議 題	事業実施計画書案について
5 担当部署	商工労働局 観光課
6 議事内容	<p>事業予定者から令和5年9月29日付で提出された事業実施計画案及び、令和5年12月20日付で提出された資金計画について、専門家から意見聴取を行うことを目的とし、第2回検討会を開催した。</p> <p>1 主な質疑応答（●委員 ○事業予定者）</p> <p>[賑わいの創出]</p> <p>（●）アジア圏など海外からの集客については、首都圏が圧倒的に優位だと考えるが、そうした中でも広島で本事業を行う理由を改めて聞かせてほしい。</p> <p>（○）広島には2つの世界遺産があり、海外・国内から多くの観光客が訪れること、また、自動車が主要な産業であることから、モビリティの新たな価値を発信する場所として相応しいと考えている。</p> <p>（●）県外・海外からの集客には、開業から一定の時間を要するのではないかと考えるが、どうか。</p> <p>（○）12月にグランドオープンしたシティ・サーキット・東京ベイの来場者の3～4割が海外観光客であることから、モビリティワールドにおいても、しっかりと話題づくりを行うことにより、開業当初から国内外の観光客に会場いただけると考えている。</p> <p>[事業の実現性・継続性]</p> <p>（●）基本設計をしなければ、費用の詳細が分からず、金融機関において融資の最終判断ができないと考えるが、今後のスケジュールについてどのように考えているか。</p> <p>（○）土地の引渡しから2年で開業する必要があることや、今後連携先との交渉を円滑に進めるためにも、基本設計はできる限り前倒して行う必要があると考えており、開業スケジュールから逆算し、3月に着手する予定である。</p>

- (●) 資金調達について今後どのように進めて行く予定か。
- (○) 開業前資金が不足した場合の親会社による補填について、書面による確約を早急に得たいと考えている。その上で、運営会社への出資、金融機関からの借入、不動産事業者の建物への事業投資の内容を確定させていきたい。

- (●) 継続性を担保するためには、ターゲット別の消費単価の設定をはじめ、収支の妥当性についての精査が更に必要である。
- (○) 事業実施計画案を更に詳細に落とし込んだ「基本計画」について3月の策定を目指し作業中であり、その中で精査を進めているところである。

※上記の他、別紙のとおり、書面による事前の質疑応答があった。

2 委員意見

- ・コンセプトや事業の内容はおもしろい。また、県外企業であるトムスが熱意をもって取り組んでいること、親会社が事業をサポートするという内諾がとれていることなどを踏まえると、トムスが「基本計画」の策定期日としている3月末まで、資金調達の進捗状況も含め、様子を見るべきではないか。
- ・公募時より事業内容が縮小しており、また、ベンチマークを首都圏の施設としていることなどから、200万人の集客の実現性に不安があるものの、コンセプトや単価設定などを含め、計画内容に大きな矛盾・違和感はない。事業の継続性をより高めるためにも、現在策定を進めている「基本計画」において、滞在時間をより長くする工夫や、ターゲット別の消費単価など更なる精査が必要である。
- ・親会社からの資金調達について、不足する資金を補填することについて書面での確約を得ることが、運営会社への出資、金融機関からの借入、不動産事業者による事業投資の手法で資金を調達していく上でも重要になる。
- ・無料エリアから有料エリアに入りたくなるような魅力的な空間づくり及び情報発信を行っていただきたい。また、特に消費単価の高い外国人観光客などは、環境問題についての意識が高い層も多いと考えられるため、環境に配慮した施設づくりも重要と考える。
- ・30年間という長期の事業である。そのため、長期的に健全な運営が図られるよう、コーポレートガバナンスを確保する必要がある。
- ・来場者にどのような価値を提供するのか、という点を意識してキラーコンテンツを検討してはどうか。
- ・開業後の話になるが、事業を評価する仕組みを設ける必要があると考える。

現広島FMP開発事業用地の新たな利活用に係る有識者検討会（第2回）

書面による事前の質疑応答

項目	委員からの意見	事業予定者回答
事業の実現性 継続性	長期の事業期間であるため、期間内に時代や状況変化が想定されるが、どのように対応していくのか。	VRコンテンツの定期的な入替の他、定期的に新たな事業投資を行うことで、リピーターを確保したい。また、モビリティは日進月歩で新たな技術開発が進んでおり、モビリティ・ワールドにおいて最新のモビリティに触れられる機会を提供するほか、実証実験を起点に新たなエンターテインメント性の高いコンテンツを創出するといった工夫を行いたい。時代や流行に合わせて、常に新しい魅力や体験を提供できるよう、定期的に顧客ニーズや市場調査を行うことも予定している。
賑わいの創出 周辺施設との 親和性	海外のEVカート場の事例についてどのように考えているか。	海外では広大な土地を活かした3階建てのカート場や豪華客船上のカート場もある。安全基準の関係で、日本よりも自由度の高いコースを設計できるといった点では海外のカート場は優位性があると考えますが、モビリティワールドにおいては、プロジェクトマップングなどによりエンターテインメント性を高めることで、差別化を図っていく。
その他	シティ・サーキット・東京ベイのこれまでの実績はどうか。	インバウンド客を中心とした消費単価の押上や、貸切利用の要望など、想定以上の引き合いがある。冬季であることから、夜間の利用率が低くなっているが、今後、広告宣伝や近隣施設との連携により、稼働率を上げていく予定。